

基礎調査報告【ごみ処理編】(概要)

1 ごみ処理の現状と将来予測

(1) ごみ処理体制

- ごみは、新市誕生前の処理体制を継続しており、笠間地区と友部・岩間地区に分かれて処理している。(2体制)
- ・笠間地区 : (一財)茨城県環境保全事業団に委託
 - ・友部・岩間地区 : 笠間・水戸環境組合で処理



(2) ごみの出し方

ごみの分別区分は、笠間地区 16 分別、友部・岩間地区 15 分別である。また、排出容器、排出場所、収集頻度が異なっている。

(3) ごみ排出量等

- ・ごみの総排出量は減少傾向である。家庭系ごみ量は減少傾向、事業系ごみ量は増加傾向である。
- ・排出量は、平成 27 年度において県の目標値を達成していない。

指標	実績 (H27 年度)	県の目標 (H32 年度)
1 人 1 日 当 たり ご み 排 出 量 (g/人・日)	926	919
うち家庭系ごみ排出量※ (g/人日)	626	580
再生利用率 (%)	30.4	27

※家庭系ごみ排出量=生活系ごみ-(集団回収+資源物+直接搬入ごみのうち資源として利用されるもの)

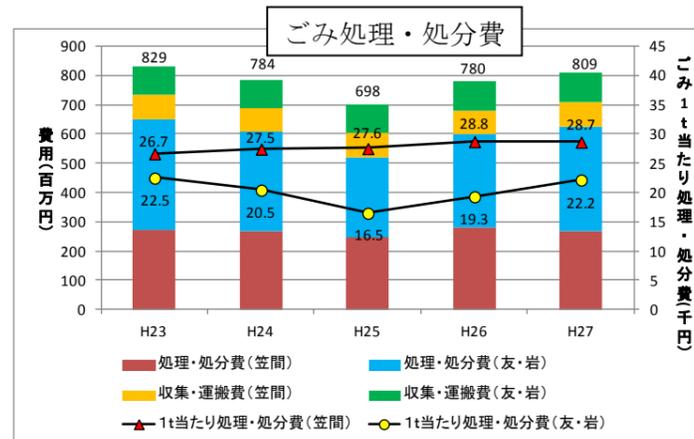
(4) 処理・処分方法

笠間地区と友部・岩間地区では、ごみの処理方法が異なっている。

	笠間地区		友部・岩間地区			
処理主体	(一財)茨城県環境保全事業団 (エコフロンティアかさま)		笠間・水戸環境組合 (環境センター・リサイクルセンター・諏訪クリーンパーク)			
種類	溶融処理施設	最終処分場	焼却施設	破碎施設	資源化施設	最終処分場
規模	145t/日	2,400,000m ³	105t/日	35t/5h	2t/日	70,000m ³
使用開始	平成17年8月 (概ね20年で終了予定)		平成4年8月		平成12年4月	平成7年5月

(5) ごみ処理費用 (平成 27 年度)

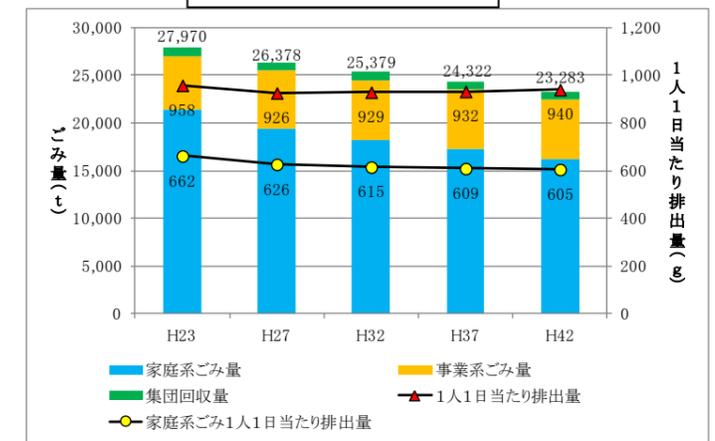
- ・総費用 : 約 809 百万円
- ・ごみ 1 t 当 たり 処 理 ・ 処 分 費 (収集・運搬費除く)
 - 笠間地区 : 28,700 円/t
 - 友部・岩間地区 : 22,200 円/t



(6) ごみ発生量等の将来予測 (現状傾向で推移)

- ・将来人口は、減少する。
- ・ごみ排出量は、人口の減少に伴い家庭系ごみ量、集団回収量が減少する。事業系ごみ量はやや増加する。
- ・1 人 1 日 当 たり 排 出 量 は、増 加 す る。(家庭系ごみは減少するが、事業系ごみ量が増加するため)

ごみ量等の将来予測



2 市民・事業者意識調査結果

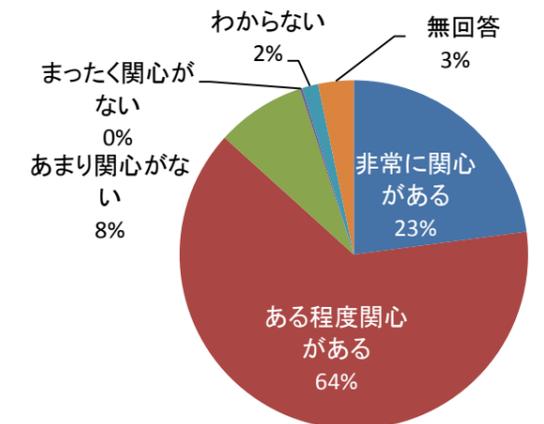
(1) 市民意識調査結果

- ・ごみ減量やリサイクルに対する意識が高い。
- ・買い物袋を持参、ごみの分別、生ごみの水切り、使えるものは修理して使うなど、ごみ減量やリサイクルに取り組んでいる。
- ・分別区分数、収集回数について、笠間地区は友部・岩間地区と比較して、満足度がやや低い。

(2) 事業者意識調査結果

- ・ごみの減量やリサイクルに 84% の事業者が日ごろから取り組んでいる。
- ・新聞・チラシ 39%、雑誌 43%、ダンボール 56%、びん 45%、缶 45%、ペットボトル 45% の事業者が資源化に取り組んでいる。

ごみ減量やリサイクルへの関心 (市民)



3 ごみ処理に係る課題

① ごみ処理体制の再構築

ごみ処理は笠間地区と友部・岩間地区の2体制に分けて処理している。友部・岩間地区のごみを処理している笠間・水戸環境組合は、平成 32 年に組合を構成する水戸市が脱退することから、今後の組織体制及びごみ処理体制の見直しを進めており、併せて、本市における今後の処理体制の統一化についての検討が急務となっている。

② ごみの減量化、再資源化

ごみ排出量は減少傾向であるが、茨城県の平成 32 年度における目標値には届いていない。新たな目標を設定し、より一層のごみの減量化、再資源化を推進する必要がある。

③ ごみ処理経費の縮減

ごみの収集・運搬、処理・処分に多額の費用がかかっており、縮減する必要がある。

④ ごみの減量化、リサイクルに関する広報・啓発活動の推進

市民・事業者意識調査結果において「分別が分かりにくい」との回答があった。また、ごみの減量やリサイクルを進めていく上で「ごみ・資源の分別の徹底を更に PR」することが重要との回答があった。ごみの減量化やリサイクルに関して、一層の広報・啓発活動が望まれる。